

令和元年度  
自己点検・評価報告書

令和2年3月  
獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

## 令和元年度 自己点検・自己評価報告書

本校は、2015年4月、獨協医科大学附属看護専門学校三郷校として、埼玉県三郷市に獨協医科大学越谷病院で働く看護師の育成と埼玉県の看護師確保を目的として開校した。

獨協医科大学には、栃木県に獨協医科大学、看護学部、看護専門学校の3つの医師・看護師養成機関があり、獨協医科大学病院と日光医療センター、埼玉医療センターへの医師・看護師を派遣し栃木県・埼玉県の保健医療を担ってきた。

しかし、埼玉県の看護職員需給状況は、都道府県別人口10万人対就業看護職員数から見ると、看護師数は全国ワースト1であり、長年にわたり需給状況の改善が見られない状況であった。その情勢の中で、越谷病院での新たな増床計画があり、看護師の要請が喫緊の課題であることから本校の看護師養成に期待が寄せられた。

2017年11月に越谷病院が200床増床し、923床となり、名称も獨協医科大学埼玉医療センターに改称された。同時に本校も2018年3月に初めての卒業生41名を全員無事に輩出することができた。

当初、本校が開校するに当たり、今の社会情勢の中では、少子化による18歳人口の減少や看護大学への進学が増加があり、入学者の人数と質の担保が確保できるのか懸念されたことから、1学年40名のスタートとなった。

第1回生が卒業する完成年度を向かえ、本校の3年間の受験者状況を見ると新設の3年課程の看護専門学校としては目を見張るほどの高倍率となり定員増に向けて大きく前進することとなった。高倍率となった背景には、今の看護基礎教育を取り巻く現状への課題へ向けて病院・学校含めて職員全員で取り組んできた結果だといえる。

本校の強みは、看護学部が増設する中で一番問題となっている実習施設が十分確保できているという点である。大学病院をはじめ近隣の地域や行政と連携し地域密着型の基礎教育が実践できしており、さらに、新しい教育方法を取り入れ、主体的な学びができる素地を育成している点である。大学病院・地域・教育機関が共に一体となり「看護を学び」「看護をする」学生を育むシステムを図っている。

平成29年度に完成年度を向かえ、第1回生を国家試験100%合格で輩出することができた。

また、平成30年度には1学年80人への定員増の認可も下り、平成31年度入学生より80人定員で学校運営が開始された。

自己点検・自己評価を実施し3年目を迎えるが、毎年、自己点検・自己評価の結果を受け止め、教職員全員の課題に対する共通理解が推進され、次年度の学校改善の取り組みへの意識が喚起されている。本校の取り組むべき問題を改善し、目標実現のための認識を一層強化するものと考えられる。

今年、開校6年目ではあるが、2学年が80人体制となり、本校の強みと魅力をさらに強化する基盤づくりが望まれる。そのためにも引き続き、自己点検・自己評価に取り組み、より質の高い教育を提供できる学校運営を目指していきたいと考える。

## 1. 学校の現況

### 1) 学校名及び設置者

学校名:獨協医科大学附属看護専門学校三郷校

設置者:学校法人 獨協学園 理事長 吉田 謙一郎

### 2) 所在地及び認可年月日(所轄庁名)

所在地:埼玉県三郷市彦成3-11-21

認可年月日:平成27年2月13日(文部科学省)

### 3) 沿革

- 2013(平成25年)4月 獨協医科大学附属看護専門学校内に準備室設置
- 2014(平成25年)4月 入学前教育(eラーニング活用)に向けて検討
- 2014(平成26年)8月 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校設置認可
- 2014(平成26年)12月 第一回入学試験<一般入試>
- 2015(平成27年)1月 あじさい看護専門学校へ研修派遣(教員)
- 3月 ポートフォリオ・ルーブリック評価導入のための研修  
入学試験合格者へ向けての入学前教育(eラーニング)開始
- 2015(平成27年)4月 獨協医科大学附属看護専門学校三郷校開校  
入学定員:40名 3年課程 収容定員:120名
- 4月 病院・学校教育連携プロジェクト会議 開始
- 2015(平成27年)6月 三郷校教員による模擬患者(地域の老人会)養成開始  
千葉県立野田看護専門学校へ授業見学(逆向き設計授業)
- 8月 獨協越谷病院・三郷校合同研修(プロジェクト学習とポートフォリオの基本)
- 2015(平成27年)10月 模擬患者を使用した演習授業開始
- 2015(平成27年)10月 指定校推薦・社会人入学試験導入
- 2016(平成27年)8月 子ども大学みさと(三郷市)本校にて開催
- 2016(平成28年)10月 公募推薦入学試験導入
- 2018(平成29年)3月 第1回生卒業 看護師国家試験100%合格
- 2018(平成30年)8月 入学定員変更申請認可
- 2019(平成31年)3月 第2回生卒業 看護師国家試験100%合格
- 2019(平成31年)4月 獨協医科大学附属専門学校三郷校定員変更  
入学定員:80名 収容定員:240名
- 2019(令和1年)9月 大学等における修学の支援に関する法律による修学支援の対象機関となる大学等(確認大学等)」として公表
- 2020(令和2年)3月 第3回生卒業 看護師国家試験100%合格

◆主な取り組みと結果

【ミッション】獨協医大三郷校ブランドの確立 ～埼玉No. 1の看護専門学校を目指して～

目標	具体的内容
1. 臨床看護実践能力のある看護師の育成	1. 病院の職員（医者・看護師・PT等）との連携教育 2. 病院・学校連携プロジェクトで8年間の一貫教育
2. 主体的な学習能力の育成	1. プロジェクト学習の導入（ポートフォリオ活用） 2. グループワーク・プレゼンテーション等の共同学習
3. 心身のバランスのとれた豊かな人間性の育成	1. 一人ひとりへのきめ細やかなかわり（担任制の導入） 2. 1年次から継続した教員による実習指導
4. 地域に根ざした愛される学校づくり	1. 行政(三郷市)・地域の老人会・自治会との連携・協力による教育体制づくり 2. 地域の老人会による模擬患者育成と演習への参加導入 3. 社会福祉協議会との連携によるボランティア活動

1) 広報活動（オープンキャンパス参加人数）

年度	オープンキャンパス開催期間	来場者数
2015	2日間	188名
2016	3日間	336名
2017	4日間	436名
2018	4日間	618名
2019	3日間	726名

\*来場者数には保護者を含む

2) 受験生の確保（志願者数）

	指定校	社会人	公募推薦	一般A日程	一般B日程	総数
1回生				160名	31名	191名
2回生	1名	13名		79名		93名
3回生	8名	33名	71名	148名	32名	292名
4回生	7名	8名	49名	94名	29名	187名
5回生	11名	16名	70名	115名	21名	233名

3) 看護師国家試験合格率

	合格者数／受験者数	合格率	全国平均合格率
1回生(第107回)	41名／41名	100%	91.0%
2回生(第108回)	44名／44名	100%	89.3%
3回生(第109回)	44名／44名	100%	89.2%

4) 卒後進路(埼玉医療センター就職者)

	卒業者	埼玉MC就職者	就職率	進学者
1回生	41名	36名	87.8%	5名
2回生	44名	41名	93.2%	2名
3回生	44名	35名	79.5%	5名

## 教育理念・教育目的・教育目標

### 教育理念

獨協学園は、「知育・徳育・体育」の3つを掲げ教育に臨んでいる。獨協医科大学は「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される医師を育成する」ことを教育の基本理念としている。本看護専門学校は「知育・徳育・体育」の精神に基づいて、人格を涵養し、「患者及びその家族、医療関係者をはじめ、広く社会一般の人々から信頼される看護師を育成する」ことを教育の理念とする。

### 教育目的：

豊かな人間性を養い、臨床看護実践能力のある看護師を育成する。

### 教育目標：

1. 人間の生命と権利を尊重し、人間を総合的にとらえる能力を養う。
2. 科学的根拠及び論理的思考に基づいた看護が実践できる基礎的能力を養う。
3. 保健医療福祉チームにおける看護師の役割を理解し、協働意識をもって看護の機能を発揮できる基礎的能力を養う。
4. 心身ともに健康で、バランスの取れた豊かな人間性を養う。
5. 主体的に学習し、考え、看護を探究する姿勢を養う。
6. 生命と人に対する深い畏敬の念と倫理観を備えた看護観を形成する基礎的能力を養う。

### 卒業時の学生像

1. 看護倫理に基づいた思いやりのある看護ができる。
2. 看護師としての責任と自覚をもち、主体的に学習する姿勢がある。
3. 人間を総合的に理解し、科学的根拠に基づいて健康問題を解決する能力がある。
4. 保健医療福祉チームの一員として看護師の役割を理解し、連携と協働ができる基礎的能力がある。
5. 生命と人に対する尊厳を重んじた自己の看護観を持っている。

### アドミッションポリシー

1. 人間や健康、人々の生活に関心がある人
2. 他者を尊敬し、人々とのふれあいができる人
3. 自ら考え、自分の意見を表現できる人
4. 看護師をめざす意志を強く持っている人
5. 使命感と責任を持ち、地域住民の健康に関心を持てる人

## 2019年度 学校運営方針

1. **専門職業人として品格のある看護実践者の育成**
  - 1) 学生個々を尊重した丁寧な指導
  - 2) 看護者としての倫理的姿勢とマナーの育成
  - 3) 専門職業人として模範となる教員の姿勢
  - 4) 社会人としてのマナー教育の充実
2. **教員の資質向上と教育力向上の推進**
  - 1) 学生・教員の定員増に伴う教職員の連絡・調整・連携の強化
  - 2) 教員ラダー・自己目標に沿った自己研鑽・研修・研究活動の推進
  - 3) 看護実践力向上へ向けた学校・病院間の人事交流の推進
3. **国家試験 100%合格への教育強化**
  - 1) 入学前学習及び低学年から継続した基礎学力向上対策の充実
  - 2) 学生がやる気を持ち、自ら学ぶ行動が取れるようなかわり
4. **資質を備えた学生の確保**
  - 1) 時代と社会のニーズをふまえた定員増員へ向けての募集戦略の立案と実行
  - 2) 学校訪問・学校説明会・オープンキャンパスの拡充
5. **病院と学校の連携・協働した学習**
  - 1) 臨床実習指導者会との連携による実習環境の充実
  - 2) 病院・学校の共同研修・共同研究の推進
6. **学校安全対策・個人情報保護の徹底**
  - 1) 個人情報保護の徹底（SNS活用に際しての個人情報保護指導）
  - 2) リスクマネジメントによる安心と信頼の獲得
7. **地域に根ざした愛される学校づくり**
  - 1) 教育活動の社会への還元
  - 2) 近隣住民の協力と連携による実習環境づくり
  - 3) 模擬患者（近隣住民）参加による教育体制の充実
8. **経営戦略をふまえた教育・業務の推進**
  - 1) 適切なコスト管理と充実した教育環境
  - 2) 教職員の意識強化と学生への指導
9. **学校自己点検・自己評価からの課題への取り組み**
  - 1) 全職員への評価項目の周知
  - 2) 全科目の授業評価の実施

1. 学校評価のカテゴリー：9カテゴリー47項目

- 1) 学校経営 (7項目)
- 2) 教育課程・教育活動 (14項目)
- 3) 入学・卒業対策 (5項目)
- 4) 学生生活への支援 (3項目)
- 5) 管理運営・財政 (4項目)
- 6) 施設設備 (5項目)
- 7) 教職員の育成 (5項目)
- 8) 広報 (2項目)
- 9) 地域との連携 (2項目)

2. 評価実施 (教職員により年1回)

- ① 評価者：教職員全員 (22名)
- ② 評価時期：年1回 (2月)

3. 自己点検・自己評価結果

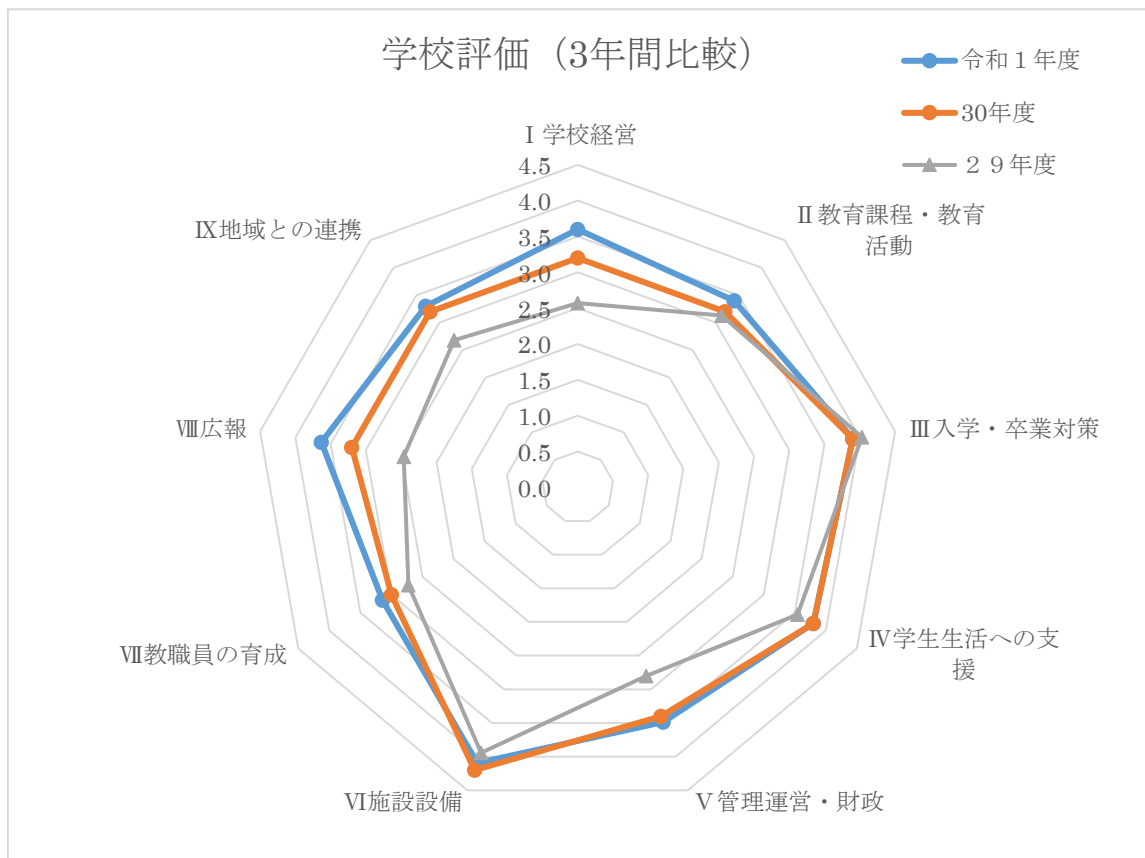
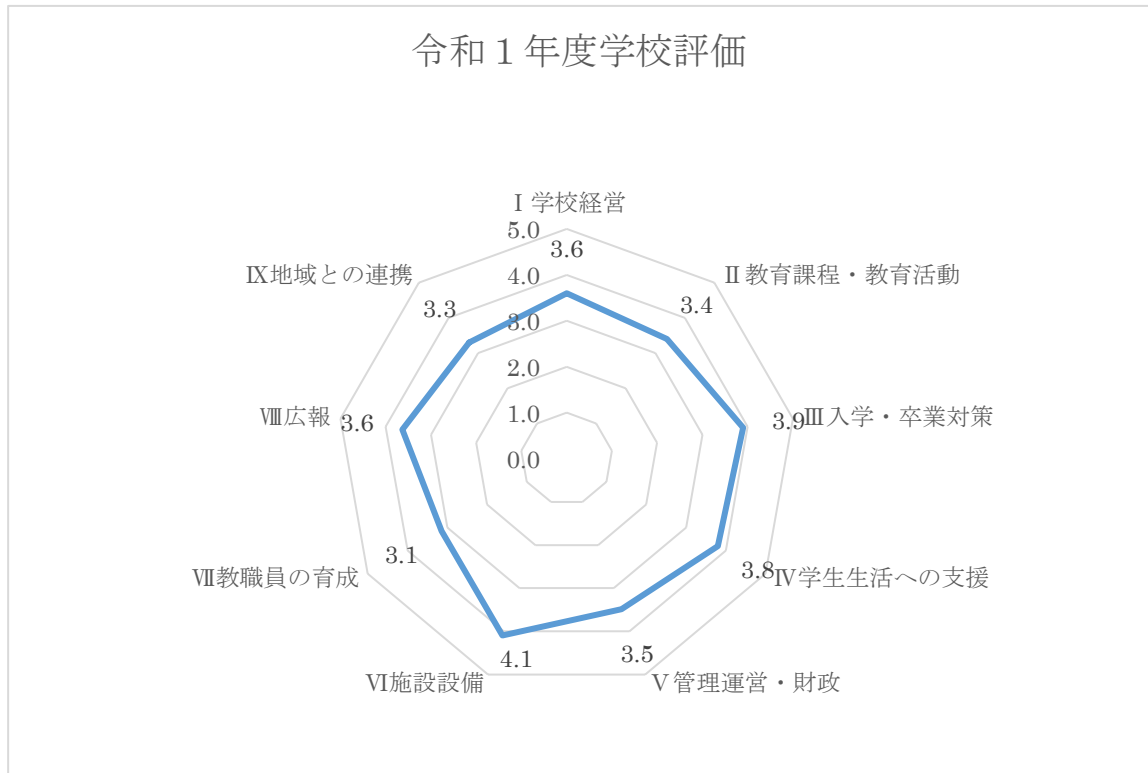
1) 評価基準

領域	項目	領域	項目	
I 学校経営	1 学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつその目標が教職員に理解されている。	IV 学生生活への支援	27 学生生活・進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分応じている。	
	2 組織目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知すると共に、次年度の目標につなげている。		28 学生の身体的側面の健康確保に努めているか。	
	3 学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知すると共に改善計画を策定しているか。		29 サークル活動、ボランティア活動等の自主活動を支援している。	
	4 特色ある学校づくりを進めるために教育内容の充実に努めているなど、学校独自のカラー(特色)を出している。	V 管理運営・財政	30 予算計画、年間行事計画を策定し、適正な予算の執行・進行管理を行っている。	
	5 意向協議が、学校運営に関する議論の場として機能している。(運営委員会 教育業務委員会・教育運営委員会)		31 学生や非常勤講師、教職員の個人情報保護について、考慮している。	
	6 教員会議が、学年の目標達成や年間指導計画実施の場として機能している。		32 災害など非常時の危機管理体制が整っている。	
	7 学校運営のための組織を整備しているか。		33 学生運営に学生の意見が反映されるように努めている。	
II 教育課程・教育活動	8 養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示していると共に、卒業時の到達状況を分析している。	VI 施設設備	34 校舎は耐震性に優れ、バリアフリーなどに配慮された構造になっているか。	
	9 教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっている。		35 教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。	
	10 シラバス(授業計画)は科目間で調整され学生に活かされている。(授業)とは講義・演習・実習をさす		36 図書室は利用しやすく学生に十分活用されている。	
	11 講義・演習の一貫性と科目間の関連性を確保するため、担当者間の連携を取っている。		37 実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品が整い、十分にその機能を果たしている。	
	12 効果的な授業運営を図るため、適切な時間割を調整している。	VII 教職員の育成	38 学生のために、休息、親睦及び交流を行なうためのスペースが設けられている。	
	13 授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫されている。		39 学校の抱えている課題をふまえた職場研修を行なっている。	
	14 授業を効果的に行うための学習環境施設・整備・教員が整えられている。		40 学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元するしくみがある。	
	15 学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。		41 教員が計画的に研究活動を行えるよう体制を整えている。	
	16 実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。	VIII 広報	42 専門領域を高めるよう支援体制が整っている。	
	17 実習指導者と教員の役割を明確にし互いに協力し実習指導に当たる体制があるか。		43 教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	
	18 学生に修了認定の評価基準と方法を公表しておりかつ評価について公平性、妥当性が保たれている。		IX 地域との連携	44 学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。
	19 実習における医療安全の確保や倫理的な行動に関する教育を行っている。			45 学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に何らかの方法で公表している。
	20 学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。	46 地域社会への貢献の一貫として、学校施設を地元開放している。		
	21 学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し授業の改善に努めているか。	47 地域との協力関係が確立されている。		
III 入学・卒業対策	22 より多くの応募者を確保することに努めている。			
	23 国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を実施するなど教職員一丸となっており組んでいる。			
	24 質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている。			
	25 卒業生への支援を行っているか。			
	26 獨協医科大学への就職率を高めるよう努力している。			

2) 評価尺度 5点：よい・4点：ややよい・3点：普通・2点：やや不十分・1点：不十分



3) 結果



4) 9 領域各項目の分析

領域	項目	評価	分析
一 学校経営	1	学校のビジョン及びそれを実現するための組織目標を策定しており、かつその目標が教職員に理解されている。	<b>3.4</b> 教育運営方針は、本校運営委員会で審議され、学長諮問会議及び医学部教授会に報告され関係部署に周知し、公開されている。 昨年の評価結果をもとに学校の状況を踏まえた教育方針を軸に、委員会活動の目標を策定している。教員一人ひとりにビジョンが浸透していないという意見が一部あり浸透が必要である。 中長期目標の明確化は今後の課題である。
	2	組織目標に対する評価を年度内に実施し、その結果を教職員に周知すると共に、次年度の目標につなげている。	<b>3.5</b> 学校評価の時期的な課題があり、日々の教育活動の質的評価は参考にしたが学校評価結果を踏まえた組織目標の策定には至らなかった。各委員会の中間評価については、組織目標との整合性を踏まえることが必要である。 今年度の学校評価を3月に実施し、次年度へ向けた方針・目標へとつなげる。
	3	学校評価を組織的に実施し、評価結果を教職員に周知すると共に改善計画を策定しているか。	<b>3.6</b> 各委員会活動・教育活動や学校運営の実績をもとに各委員会責任者を中心に自己点検自己評価を実施した。この評価結果を踏まえた対策が講じられているかは次年度計画を合わせて検証する必要がある。
	4	特色ある学校づくりを進めるために教育内容に充実に努めているなど、学校独自のカラーを出している。	<b>4</b> 看護基礎教育の現状と課題を踏まえ、プロジェクト学習や模擬患者、シミュレーション教育、ボランティア活動など実施している。多角的で客観的な教育評価により成果と課題を明確にする必要がある。 (評価視点の変更はどうか：～努めている。)
	5	合同会議が、学校運営に関する議論の場として機能している。	<b>3.5</b> 運営委員会は本校の管理運営を司る会議として本校以外の役職者も含めた議論の場としている。入試委員会、運営委員会、教育業務委員会、教員委員会を定期的で開催されている。 会議の議題は事前に明確に周知されていない会議もあり、効果的な運営には課題がある。委員会毎に議事録は整備しているが、すべてを全員が閲覧できるシステムではなく共有化に課題がある。
	6	教員会議が、学年の目標達成や年間指導	<b>3.6</b> 学年目標・計画をもとにした活動報告を行っている。 目標達成、計画実施の場となっており、目標策定も出来

		計画実施の場として機能している。		ているが効率的効果的な運営については課題がある。学生の成長となるような教育や学校運営についての議論が活発にできることが課題である。
	7	学校運営のための組織を整備しているか。	3.7	自己点検自己評価をふまえた課題に対する組織づくりとしては、小委員会・プロジェクトの課題達成状況と必要性を検討し、今年度は検討委員会として組織が整備されてきている。開校から5年の中で定員増員や教職員の配置人数の変更もあり、組織の確立と熟成には課題が残る。
	平均		3.6	
<p>I 学校経営</p> <p>総合評価は、一昨年・昨年より高くなった。特に、組織目標の浸透、学校評価の実施、特色ある学校づくり、組織の整備について評価が上昇した。前年度の評価結果をふまえ改善へ向けての意識が高まり全教職員で取り組めた。</p> <p>【課題】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 中長期目標に基づく学校のビジョン・教育方針と教育や各委員会活動との整合性</li> <li>2. 学校評価結果と次年度計画の整合性</li> </ol> <p>【今後の改善策】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 学校の理念・目標・卒業時の学生像と学校運営方針をふまえた教育活動となるよう教職員に周知徹底する。</li> <li>2. 学校評価をふまえた次年度の教育方針の策定と委員会活動計画との整合性の検証</li> </ol>				
領域		項目	評価	分析
II 教育課程・教育活動	8	養成する看護師が卒業時において持つべき資質を明示していると共に、卒業時の到達状況を分析している。	3.5	教育理念・教育目標に基づき、卒業時の学生像として明示され、入学時・実習前オリエンテーションをはじめ折りに触れ学生に説明している。病院との連携会議の中で卒業時到達度指標作成を行っているが、系統的・総合的な卒業時到達度評価が必要である。
	9	教育課程は、教育理念・教育目標と一貫性があり、時代の要請に応える内容になっている。	3.3	看護基礎教育が抱える課題と社会のニーズ、現代の学生像を捉え、本学の建学の精神に基づき教育理念と卒業生像の一貫性をふまえた教育課程を編成している。 カリキュラム検討委員会では、理念・卒業生像・教育課程の一貫性を検討したが十分な分析には至らず、カリキュラム改正も伴うこともあり、定期的な検討の場が必要である。

10	シラバス（授業計画）は科目間で調整され学生に活かされている。 〈授業〉とは講義・演習・実習をさす。	3.4	科目の関連や学習進度を共通理解が不十分であり、学習内容の重なりや基礎知識獲得などに課題がある。 配布されているシラバスは変更も多く、学習内容や評価方法を理解し、円滑で効果的に学習できるよう次年度より WEB シラバス導入となり、内容を検討し修正した。日程や講師の変更が生じた場合の対応、内容の検証を引き続き行う。
11	講義・演習の一貫性と科目間の関連性を確保するため、関係者間の連携を取っている。	3.3	カリキュラム検討委員会のメンバーである各領域リーダーを中心に、科目担当者・外部講師と教育理念・科目のねらい・科目間の関連性について一部検討はできたが、共通認識を促進する機会は不十分だった。 専門基礎科目においては複数の担当講師が担う科目もあり、効果的な学習となるよう講師の調整に努める。
12	効果的な授業運営を図るため、適切な時間割を調整している。	2.9	時間割作成においては学習の順序性・間隔を考え学習効果を図るとともに教員の準備時間が確保できるように配慮している。今後も、演習室・教材の重複、学生の課題学習も考慮に入れる必要がある。 今年度より 1 学年の定員が増員になり、科目や単元の内容により 2 クラス・合同クラスで各々対応したが、教員の負担も加味して講義・演習の効果的な授業運営について更なる調整が必要である。 特に専任教員の時間割決定後の変更を少なくするために、カリキュラムと時間割の共通理解をする機会を作り、作成時の確認を徹底する。
13	授業内容や指導方法が学生レベルに合うように工夫されている。	3.1	授業研究・公開授業においては一部の実施に留まり、適切な授業内容と指導方法となるような指導・連携体制を検討する。 現在、講義・演習指導計画が共有できていないため、共有フォルダに蓄積し有効活用していく。 教員の経験を踏まえて専門領域を確立でき、教育の質保証となるよう校務分掌を策定する。
14	授業を効果的に行うための学習環境施設・整備・教員が整えられている。	3.5	定員増員につき教材の追加等はおこなったが、PC 室、図書室、実習室、演習室、グループワーク室等の運営については、現状分析し課題の検討が必要である。 教員数は指定規則に掲げられている人数は達しているが、新設校で検討課題が多い中で、教育経験の少ない教員の存在や、実習中の講義や演習もあり、適切な人員配置を行うことが必要である。

15	学生の単位取得に向けた支援を実施しているか。	<b>3.5</b>	<p>入学時・9月に、単位修得に関する説明を実施しているが、高校までの学習との違いや学則や規程の読み込みや学習行動に課題がある者もいる。差があり具体的な説明と継続的な支援が必要である。学習に課題のある学生に対しては、担任だけでなく科目担当教員も機会教育が必要である。</p> <p>授業評価と合わせて、未修得者の存在する科目、平均点の低い科目の分析と学生へのフィードバックが必要である。</p>
16	実習目標が達成されるよう実習環境が整備されている。	<b>3.6</b>	<p>実習施設とは連絡・調整を担い、不足している用具を整備し、実習に必要な教育環境となっている。</p> <p>実習指導者は毎日配置され、不在時の連携も取れている。</p> <p>教員の専門性を活かした実習指導配置とし、年度内で複数の異なる病棟で指導することの無いように配慮している。</p>
17	実習指導者と教員の役割を明確にし互いに協力し実習指導に当たる体制があるか。	<b>3.8</b>	<p>定期的に附属病院の実習指導者会に参加し、実習の状況、問題等の対応について話し合いを持っている。</p> <p>病院管理者と学校管理者による教育連携会議を継続し、8年間一貫教育ができるシステム作りと連携強化を図り、看護師育成を目指している。</p> <p>さらに、実習指導につながる合同研修を企画し、教育の連携を強化する。</p>
18	学生に修了認定の評価基準と方法を公表しておりかつ評価について公平性、妥当性が保たれている。	<b>3.4</b>	<p>単位修得に関する規定とルールを学生生活のしおりに提示し説明している。評価結果は運営委員会を経て、最終的に学長の承認を得ている。</p> <p>評価基準と評価結果について、実習は複数（指導者・教員）による評価面接を行っている。学科目においては、定期試験後の模範解答の提示や問題の返却を行っていない。成績結果が低迷している科目においては、特に評価結果や解答解説を行い適切に学習でき単位修得できるようにすることが必要である。</p>
19	実習における医療安全の確保や倫理的な行動に関する教育を行っている。	<b>3.5</b>	<p>入学時のオリエンテーション、一部の授業科目、実習開始時に看護師としての倫理的行動について教育を行っているが、体系的な看護倫理は課題である。</p> <p>集中会議においては、実習指導について事例検討会を開き、教育を振り返り議論しあう場を設けている。</p> <p>事故防止に対する感受性を高めるオリエンテーション</p>

				を行うとともに、インシデント発生時は個別指導と再発防止のためのカンファレンスを実施している。
	20	学生指導において、学生に対して人権への配慮がされている。	3.7	大学の個人情報保護規定に準じた共通理解と教育を行っている。看護学生として、患者の人権も同様に配慮されなくてはならないことを教育し、実習開始時には個人情報保護法、実習同意書等十分な説明を行い、書類を提出し実習に臨んでいる。 授業評価・実習アンケート・ご意見箱等を通じて寄せられた指摘については必要時教員間で共有し、また個人指導している。
	21	学生による授業評価及び教員の自己評価を実施し授業の改善に努めているか。	3.5	学生による授業評価結果と対策についての回答を行っている。 今後は、外部講師が担当する授業評価結果の取り扱いを検討し、学生の意見が反映された教育の保障に努める。
	平均		3.4	
<b>II 教育課程・教育活動</b> <b>【課題】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 目標と卒業生像との一貫性、分野・科目間の関連性を明確にしたシラバスを作成する。</li> <li>2. 学生・教員双方に効果的な授業運営となる時間割を作成する。</li> <li>3. 授業評価のフィードバックをシステム化する。</li> </ol> <b>【今後の改善策】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 教育理念・目標と卒業生像との一貫性を可視化したシラバスを作成する。</li> <li>2. 定員増における授業時間の増加、実習時期、業務役割を考慮した時間割の調整と担当する講師の協力を得る。</li> <li>3. 今年度の授業評価の課題をふまえた運営を検討する。</li> </ol>				
目 入学・卒業対策	22	より多くの応募者を確保することに努めている。	4.2	広報活動については進学ガイダンス、高校訪問、オープンキャンパスなどを通して充実したPR活動を行っており、受験生の確保につながっている。次年度はさらに費用対効果を考慮し、ITを活用した広報活動の充実を行うとともに学生の出身高校へのフィードバックを「具体化していく。
	23	国家試験対策に個々の学生に合った指導・援助を実施するなど教職員一丸となって取り組んでいる	4.1	開校より、看護師国家試験合格率100%である。国家試験対策として国家試験専門の講師を招き講義を行っている。また、学年主任、担任を含め個人面談や学生のレジネスに合わせた学習方法を指導している。1月、2月は各領域担当教員が直前対策講義を実施し、国家試験前日には、教職員全体で学生を激励し一丸となって取り組

			んでいるが、一部の教員で実施していることも多く必要な情報が共有されていない現状もある。どのような情報共有が必要としているのかを明確化し、教員全体で取り組めることが課題である。
24	質の高い卒業生を多く輩出するための努力を行っている。	4	学生指導においては担任制をとっており、担任による定期面接に加え学生個々の相談内容によっては、学年主任、学年、統括等で話し合い対応している。また必要時保護者を交えての面接も行っている。課外時間を使い学生の技術習得指導も行っている。退学率は2%以下である。
25	卒業生への支援を行っているか。	3.6	卒業後3～4ヶ月目にホームカミングデイを設けている。附属病院と連携し全員がホームカミングデイに参加できるように配慮してもらっている。卒業生については本学すべての図書室の利用が可能であり、卒後も生涯学習の支援を行っている。いまだ、既卒者、中途退職者への支援としてはシステム化されていない。退職者の情報も入って来ない現状があり、退職者自身が支援を望んでいる様子もない。入職前にインターシップを実施したり、実習だけでは見えない職場環境を体験することで働くことへの意識を持つことが理想と現実のギャップを埋めていくのに重要ではないかと考える。どのような支援が望まれているのかを明確にし、早期離職につながらないような支援システムを検討していく。
26	獨協医科大学への就職率を高めるよう努力している。	3.7	3回生の附属病院への就職率は90%であり、社会人の他病院への就職が多い。早期離職者がいないよう病院・学校双方の取り組みが必要である。
平均		3.9	

### Ⅲ 入学・卒業対策

総合評価は3.9と高評価である。受験倍率2倍以上、国家試験合格率100%を継続中である。

#### 【課題】

1. 関連病院に就職した卒業生が職場適応できずに中途退職となるケースがある。
2. 卒業生への就職後の支援がシステム化されていない。
3. 社会人学生が他の病院へ就職する確率が高い。

#### 【今後の改善策】

1. 関連病院との連携を強化し、卒業生の離職原因の明確化を実施する
2. 卒業生の早期離職防止に向けた対策を実施する。
3. 専門職業人としての職業倫理に関する教育内容の充実を図る。
4. 在学中に職場体験ができるよう、インターンシップを促していく。

Ⅲ 学生生活への支援	27	学生生活・進学・就職などの進路に関して学生の相談に十分応じている。	3.8	入学時より卒業後の進路に関して、選択肢があることを情報提供している。附属の養成施設であるため他施設、進学を推奨することは敢えてしないが、希望があれば相談に応じている。学校生活に関して必要時相談に応じており、必要時カウンセリングを勧めているが十分に活用できていない。
	28	学生の身体的側面の健康確保に努めているか。	4.1	入学後のオリエンテーションで校内のカウンセリングルーム、カウンセラーの紹介・役割を学生に周知している。担当が面接を行い必要と思われる学生にはカウンセリングを勧めているが十分に活用できていない。さらに活用の機会を増やすシステム作りが必要である。健康診断は毎年4月に実施され、必要があれば埼玉医療センターへ受診ができるよう連携体制を整えている。
	29	サークル活動、ボランティア活動等の自主活動を支援している。	3.6	学生の自治会を立ち上げ、学生が自主活動を通して社会貢献できる体制を整えている。 サークル活動はまだ機能していないが、ボランティア活動に関しては担当教員を配置し積極的に活動しており、高い教育効果をあげている。(みさと団地への血圧測定、子ども食堂、地域のごみ拾い、阿波踊り参加、団地夏祭り) ボランティア活動を活発に支援していくために、4月に三郷市の社会福祉協議会より説明を受ける体制を取っている。
平均			3.8	
IV 学生生活への支援 【課題】 1. 相談窓口としてカウンセリング室が十分に活用できていない。 【今後の対策】 1. 活用の機会を増やすシステム作りが必要				
Ⅳ 管理運営・財政	30	予算計画、年間事業計画を策定し、適正な予算の執行・進捗管理を行っている。	3.7	本学の中長期計画及び当該年度事業計画等に基づく予算編成に基づき、適正に執行・管理を行っている。 学園監査担当監事による定期的な監査において、帳票類等の点検、現預金管理、運営委員会議事等の確認が行われており、加えて、会計事務所による決算監査及び現物監査が実施されている。また、物品等の購入に関しては、予算計上外の物については必要性を精査している。 大学の基本方針が示され、決算報告などが行われているが、更なる当事者意識の醸成と経費節減の必要性について



			て共有が必要である。
	31	学生や非常勤講師、教職員の個人情報の保護について、考慮している。	<b>3.6</b> 本学には獨協医科大学個人情報保護規程が制定されており、「学生のしおり」に掲載されている。入学時を始め、各領域実習や各学年のホームルームにおいて適宜指導・教育を実施している。また、個人情報については規程に基づき適正に管理しているが、学生の実習において、インシデントやアクシデントに繋がる事案も見られるため、教職員及び学生ともに更なる個人情報の取扱いの徹底を行う必要がある。
	32	災害など非常時の危機管理体制が整っている。	<b>3.0</b> 入学時のオリエンテーションでは、防災意識を高めるためのグループワークを実施し、災害時における判断行動へつなげるための危機管理や人命の安全に関する教育を行っている。安全管理については、警察署・消防署と連携し、カリキュラムの中に組み込み危機管理対策に取り組んでいるが、今年度は2月に予定していた防災訓練について、新型コロナウイルスの影響を勘案し未実施となっており反省点である。また、懸案されていた災害時における帰宅困難が発生した場合の備蓄品について精査し完備した。緊急時における連絡手段として、LMS（学習支援システム）によるメール配信等も運用を開始した。
	33	学生運営に学生の意見が反映されるように努めている。	<b>3.6</b> 学生の意見や要望を聞くための意見箱を設置しており、これらに関しては、教育業務委員会等で内容について精査し対応している。校内の施設・整備面の要望については、その用途を含め制限があるため、可能な範囲で対応している。昨年度要望のあった自販機（食品）の設置は完了しており、今後も学生のキャンパスアメニティ向上を検討する。
	平均		<b>3.5</b>
V 管理運営・財政			
【課題】			
1. 学校運営における経費節減の具体的な提示と予算執行状況の共通理解			
2. 実態に即した防災訓練の実施（内容の再考）			
【今後の対策】			
1. 定期的に教職員に対し、予算執行状況を報告する機会を設ける。			
2. 画一的な内容ではなく、より災害の実態に即した訓練を実施する。			
設 設 備 施	34	校舎は耐震性に優れ、バリアフリーな	<b>4.4</b> 校舎は開校 5 年目であり、耐震基準においては問題ない。バリアフリーなど配慮されており、障がい者用トイレ

	どに配慮された構造になっているか。		レも設置され、エレベーターも設置された構造となっている。
35	教育目標達成に必要な施設、設備及び新しい教材が整っており、活用されている。	4.2	本校の教育内容にふさわしい設備が設けている。講義室には、PCやAV機器が常設され、校内にはWi-Fi環境が整備されている。PC室（全48台）や演習室（全15室）を開放し、個人学習やグループワーク等に活用できる。領域別の実習室には、必要備品が完備されるとともに、申し出により技術練習を行うことも可能である。このように、学生が主体的な学ぶ習慣を培う環境が整えられており、入学定員増員（H31.4）への対応も完了している。
36	図書室は利用しやすく学生に十分活用されている。	3.7	司書を1人配置し、大学図書館及び埼玉医療センター図書室と連携の上、管理・運営を行っている。学生への利用案内・文献検索、国家試験問題webなど、オリエンテーションや情報科学の講義などを通じ、有効利用に向けた対応を行っている。指定規則に定められた蔵書数は配架されているが、年次計画により蔵書を増やしており、現在、蔵書約6,300冊、AV資料約265点がある。なお、これらの選定にあたっては、図書室運営委員会において協議し、学生の学びに有益な図書を選定している。司書については、図書室に常駐せず必要の都度対応していることから、利用時間については、完全退校時間（19:00）や勤務時間との関係から、月・水・金については18:50、その他は17:50と制限されており、学生の利便性の面では課題がある。また、学生の利用マナーに問題があり、適時指導していくことが必要である。
37	実習室は学生数に応じたスペースが確保され、必要な備品が整い、十分にその機能を果たしている。	3.9	ベッド数、スペース、教材等も十分に確保されている。備品・設備に関しては担当教員が管理し、使用方法・管理など定期的に点検を行っている。実習室は常に学生に開放し、自主的学習ができる環境を整えているが、一部、破損物品が放置されることから、利用マナーについて指導を強化していくことが必要である。
38	学生のために、休息、親睦及び交流を行なうためのスペースが設けられている。	4.1	本校は講義室以外に、ラウンジ、フリースペース、運動場、講堂等多様な場所が確保されており学生は自由に活用している。サークル室も設けてあり、自治会活動にも活用している。運動場・講堂には体育用品も準備されており、交流の場となっている。

				食堂は設けていないが、増員に伴い、電子レンジ、給湯の準備は整えられている。
平均		4.1		
<b>VI 施設設備</b> <b>【課題】</b> 1. 定員増員への対応の未周知 2. 図書室の利用の乱れ <b>【今後の対策】</b> 1. 定員増員時の施設・備品の利用方法の徹底 2. 図書利用のオリエンテーションの徹底				
<b>III 教職員の育成</b>	39	学校の抱えている課題をふまえた職場研修を行なっている。	<b>3.6</b>	学校全体として学会・研修への参加、研究活動、自己啓発などへの支援体制は整えられているが、平等な費用の活用は課題が残る。 今年度の教育上の課題を共有し教員研修を企画し一部実施した。後期は、カリキュラムに関する教員研修が延期になり、集中会議内での意見交換に留まった。教育の質向上をねらいとした長期的展望にもとづく企画・運営が必要である。
	40	学会または研修等に参加した成果を他の教職員に還元するしくみがある。	<b>3.2</b>	学会・研修への参加した成果について一部伝達講習できた。成果の共有の活性化に向けて、公的意識を持つことや、伝達する時間の確保や伝達方法の工夫を検討する必要がある。 また、研修の教育への還元とコスト管理を考慮した研修となるような体制をつくる。
	41	教員が計画的に研究活動を行えるよう体制を整えている。	<b>2.7</b>	現在個人で研究活動を行っている専任教員は一部であり、研究活動を行うための指導体制作りが急務である。看護学部・壬生校と連携し、研究活動ができる体制を準備している途上である。又、研究活動を行うために時間の確保、業務の整理が必要である。
	42	専門領域を高めるような支援体制が整っている。	<b>2.6</b>	新設校として、教員間の連携・学校のカリキュラムの共通理解を重点にしてきたため、これまでは専門分野の確立に至らなかった。現在、専門分野を確立する体制・組織作りをふまえた校務分掌にしており、担当する科目の定着と質の向上にむけて取り組んでいる。そのためには、教員の定着と指導体制の確立が必要である。
	43	教員の授業を他の教員が参観、講評できる制度があるか。	<b>3.3</b>	教員の質の向上を目指して、公開授業を実施している教員は一部である。今後も、授業研究の必要性や効果について全教員で理解しあうことが必要である。埼玉県高等

				看護学校教務主任協議会の事業である看護教員教育力アップ研修参加により、授業研究の取り組み、リフレクションの仕方を学び、校内に取り入れ効果的な参観・講評ができる仕組みを作っていくことが必要である。
平均			<b>3.1</b>	
<b>Ⅶ 教職員の育成</b> <b>【課題】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>学会・研修での成果を積極的に還元していけるような体制づくりが必要である。</li> <li>教員の研究活動の支援体制の確立が必要である。</li> <li>活発な授業研究ができるような体制づくりが必要である。</li> </ol> <b>【今後の対策】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>学会や研修の学びを伝達する体制を作り、教育の質の向上に努める。</li> <li>研究活動の基盤を作るための研修や研究支援体制を作る。</li> </ol> 授業参観やリフレクションの効果、共同で作りに上げていく教育方法の仕組みや楽しさを共有できる場をつくる。				
Ⅲ 広報	44	学校の存在を周知するため、ホームページ、携帯サイトをはじめとした積極的な広報活動をしているか。	<b>3.7</b>	本年度、医科大学全体でホームページリニューアルを実施し、更新スピードも速くなっている。今後は、受験生が必要な情報が取れるよう具体的な広報内容について検討していく。また、学校のホームページにたどり着けるよう他の通信広告なども検討していく。
	45	学校運営及び評価の結果を学校関係者以外に何らかの方法で公表している。	<b>3.5</b>	昨年度、自己点検を実施し、本年度その結果をホームページにて公表した。今後、今年度の自己点検結果および学校関係者評価を行い結果についてホームページに掲載し公表する予定である。
平均			<b>3.6</b>	
<b>Ⅷ 広報</b> <b>【課題】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>ホームページに掲載する広報関係情報が乏しい。</li> <li>授業評価・学校関係者評価結果の公表ができていない。</li> </ol> <b>【今後の対策】</b> <ol style="list-style-type: none"> <li>次年度は進路指導前に広報関係の情報をホームページに掲載する。</li> <li>次年度に授業評価・学校関係者評価の結果を公表する。</li> </ol>				
☒ 地域との連携	46	地域社会への貢献の一貫として、学校施設を地元開放している。	<b>2.9</b>	本校は地域の防災拠点となっており、災害時の避難・備蓄場所としている。 運動場の開放は地域の要望が多く地域貢献度の向上のためにも今後も検討する必要がある。 現在、三郷市からの依頼で子ども大学を実施しており、

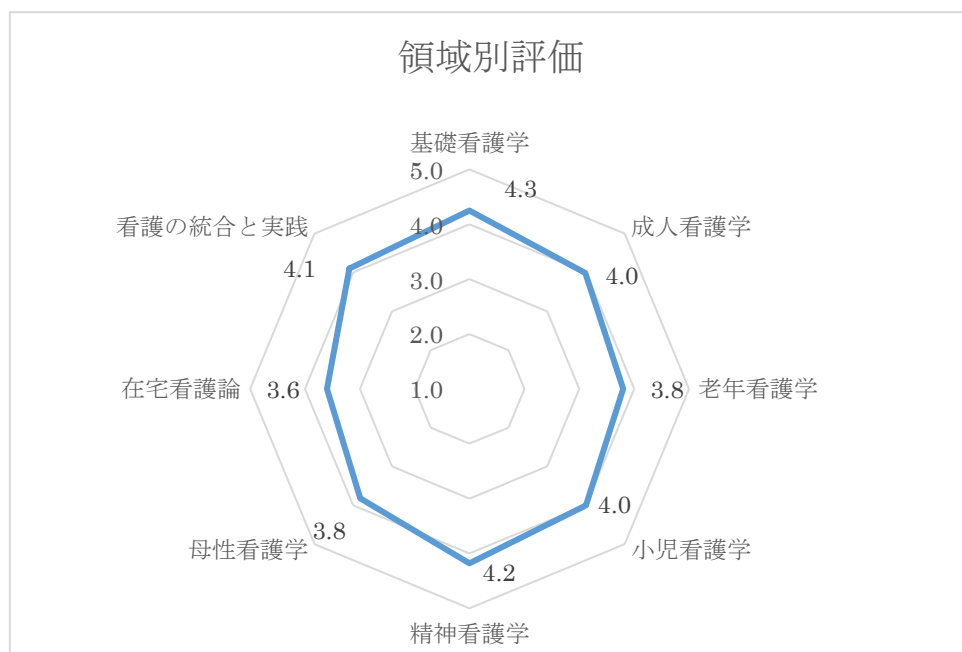
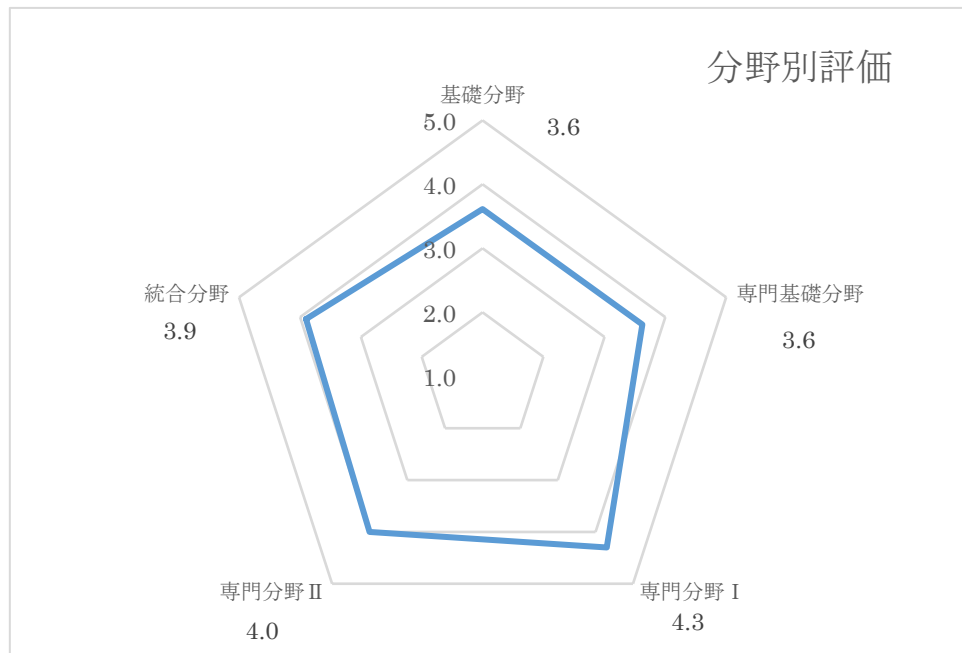
			三郷市の小学生や保護者が本校で学ぶという事業を受けている。今後地域住民との交流を深めるための講座等も含めて検討していく必要がある。
47	地域との協力関係が確立されている。	<b>3.9</b>	<p>模擬患者養成やボランティア参加をしていたが本年度は定期的にボランティアに参加し前年度よりも関係者との協力関係は確立した。また、新しい老人会の参加も依頼し受けて頂いた。</p> <p>三郷市の自治会と連携し、講義・実習に協力してもらい体制を整えている。自治会や老人会へ出向き打ち合わせ会議や状況把握を行っている。</p> <p>学生はボランティアで地域の行事に参加させてもらい、地学びも多く地域との協力関係をさらに築いている。しかし、地域の教育活動には貢献できていない。</p>
平均		<b>3.3</b>	
<p><b>IX 地域との連携</b></p> <p><b>【課題】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 地域住民に対しての学校施設の開放が不十分である。</li> <li>2. 学校を知ってもらうための活動を検討する。</li> </ol> <p><b>【今後の対策】</b></p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1. 三郷市と本学本部との調整が学校開放には必要であるが引き続き検討していく。 又、地域住民に対しての公開講座を計画していくことを検討する。</li> <li>2. 学生ボランティアを確立するための方法について</li> </ol>			

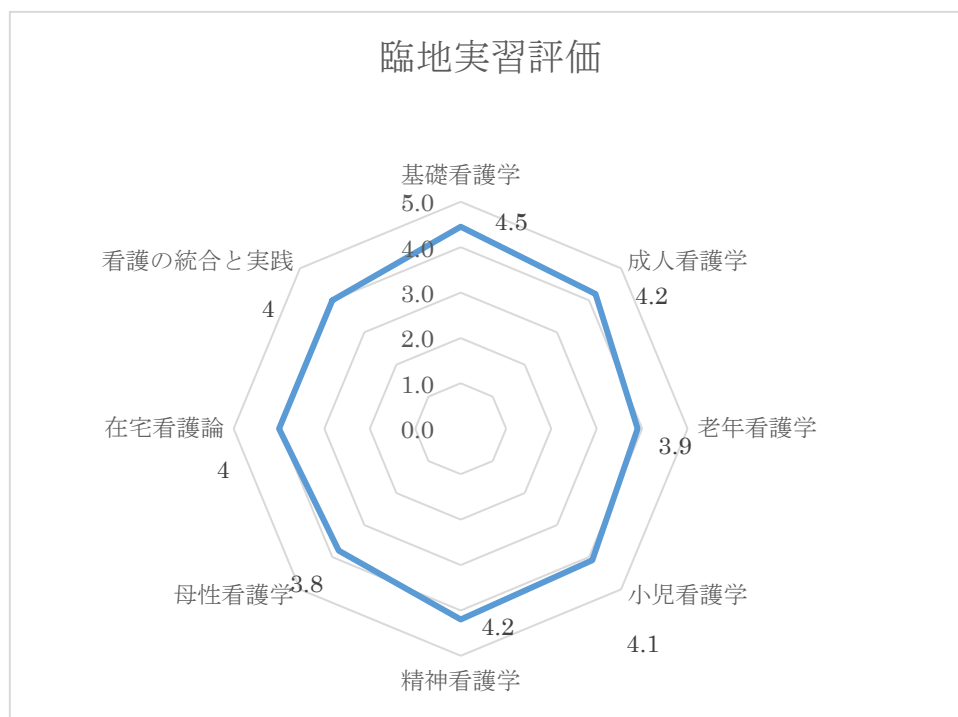
## 総評

令和1年度は平成29年度より使用している評価表（9領域47項目）を5段階の評価基準で評価した。自己点検を開始して3年目となるが、その結果は前年度と比較しても全領域で改善が見られ、3.0（普通）以上の評価を得られた。初年度は3.0を下回っている領域が5領域あったが、次年度へ向けての課題と改善策が明確になることで、教職員の意識改革への変化となり、評価点も上昇してきた。当初最も低い値であった学校運営（2.6）も教員全体で検討を重ね共通認識を持ち、取り組むことで今年度3.6の評価点を得られた。

しかし、Ⅶ教職員の育成の領域では、研究活動の支援がまだ低い値で評価されており、教育の質の向上のためにも環境を整えていくことが喫緊の課題であると思われる。

# 授業評価





#### 評価

今年度、課題であった学生による全科目の授業（講義・演習・実習）評価を実施した。

基礎分野 (2.4～4.5)・専門基礎分野 (2.5～4.2) では科目間の評価に差があり偏りが生じている。今後改善に向けて検討していくことが必要である。

専門分野Ⅰ (3.8～4.5)・専門分野Ⅱ (3.6～4.5)・統合分野 (3.4～4.2) では科目間の偏りがなく高評価を得ている。臨地実習ではおおむね 4.0 以上の評価を得られ、実践の場を通して学生の達成感や満足度が高く多くの学びを習得していると考えられる。

今回初めての授業評価を実施し、学内の教員に関しては評価結果を参考に結果へのコメント・改善策を学生へ向けて公開した。次年度は外部講師も含めて実施できるように取り組んでいく予定である。また授業評価を行い、結果を次年度の教育活動に役立てていけるよう各領域で改善策を検討し、教育の質の向上を目指していきたいと考える。